

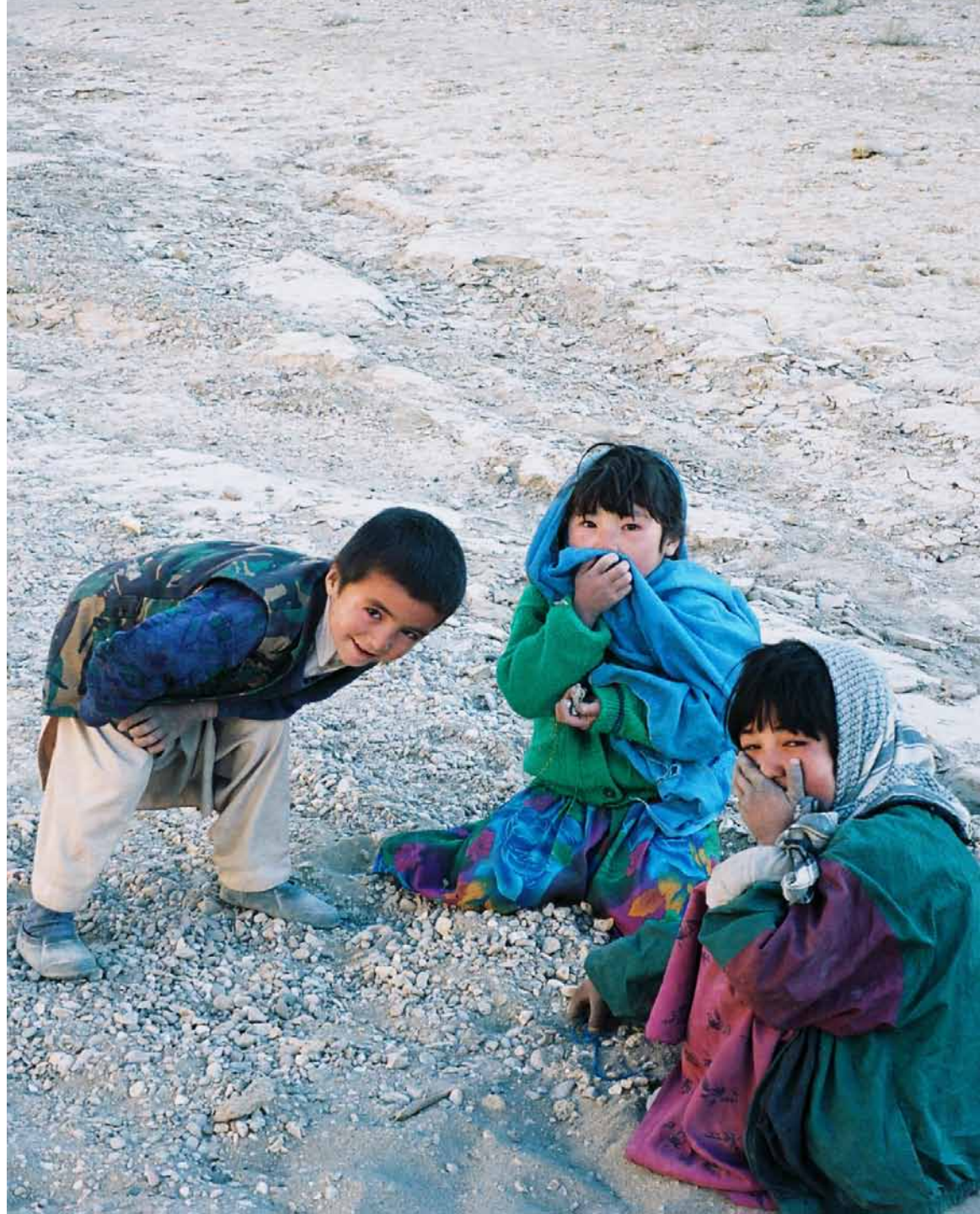
2019年12月7日  
第26回 真宗保育学会

# 未来を担う子どもたち

入澤 崇  
(龍谷大学)

# 自己紹介

- 私の専門は仏教文化学です。
- 2004年からアフガニスタンの仏教遺跡調査に出向いていました。
- アフガニスタンの子どもたちを見ながら、現代社会の課題について考えていました。



# 母想いの少年に出会いました

- 電気もない、ガスもない貧しい村で仔馬に乗った少年に出会いました。
- 「病気の母親を病院に連れていくところ」
- 見渡せば病院らしき建物は見当たらない。  
3時間かけて病院に行くと言う。



# バーミヤーン石窟(アフガニスタン)



# バーミヤーンの少年

- 2004年5月、アフガニスタンのバーミヤーンでの出来事
- 広場で少年がボール遊びをしている。少年はボールを蹴るたびにひっくりかえる。
- 少年は片脚。地雷で左脚を失ったという。毎日サッカーの練習をしているとのこと。

# 絶望を乗り越えて

- 前方に石を置いて、それに向けてボールを蹴る。ボールを蹴っては転び、転んではまた立ち上がる。
- 腕はアザだらけ。Tシャツは土で汚れ、擦り切れている。
- 少年はサッカー選手になるのが夢。
- 片方の脚を失った少年の悲しみ、苦しみは計り知れない。



# 明日に向かって

- 夕日を浴びながら、黙々とボールを蹴る少年の意識には何が流れているのだろうか？
- 地雷を埋めた民族に対する怨念だろうか？
- 貧しさゆえに義足をつけられない絶望だろうか？
- 少年の眼は輝いている。
- 少年は明日に向かってボールをキックしている。

# 前向きに生きる

- 少年は父親の跡を継いでジャガイモ畑を経営し、稼いだお金で義足を買う計画を立てている。
- 少年の知人は言った。「彼は夢をあきらめていない」

逆境の中でも  
前向きに生きている人たちがいる



# 重くのしかかる社会的現実

子どもの希望を打ち砕く現代社会

# 射殺された中村哲さん



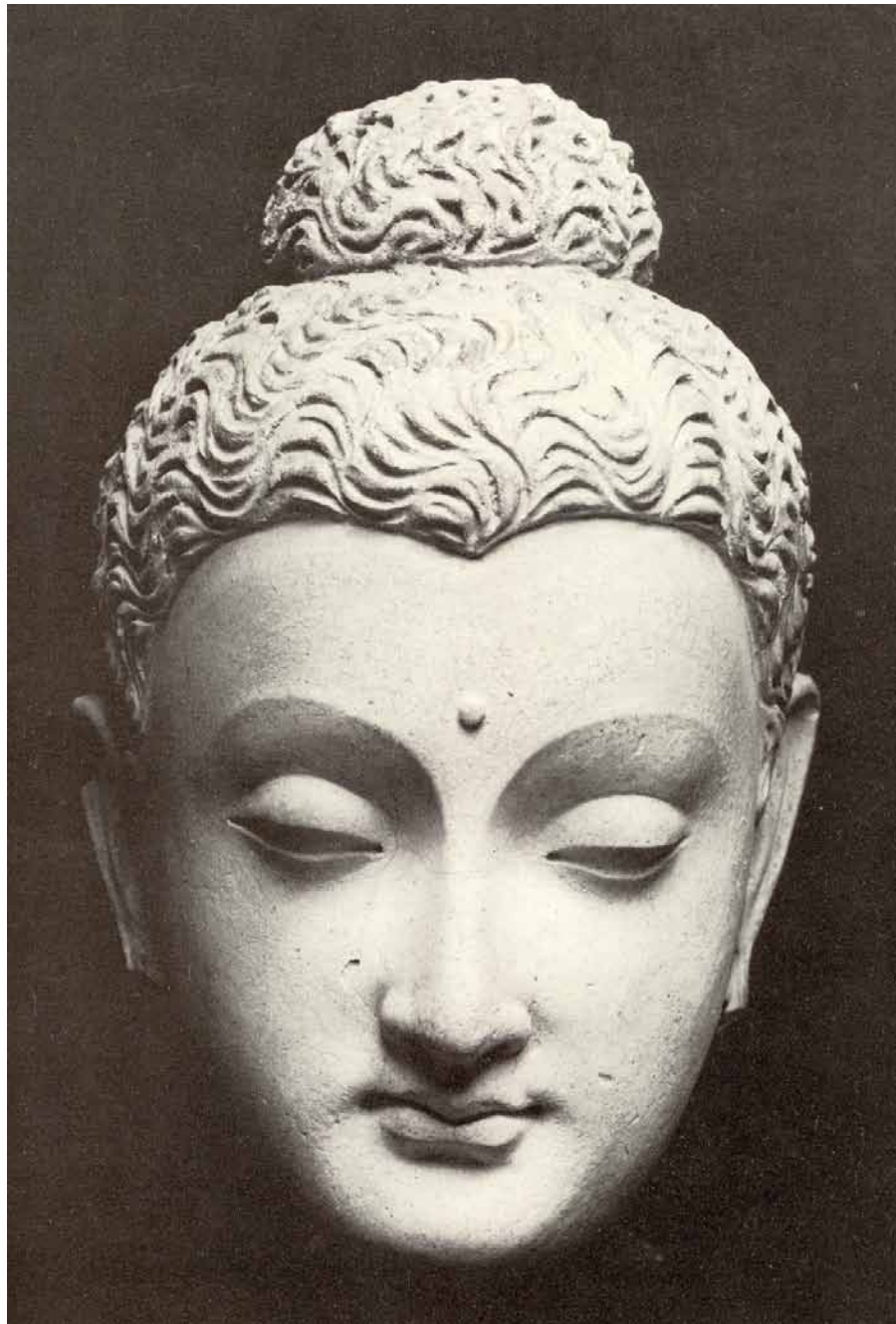
# 中村哲さんの偉業

At Slampur, May 2005



At Slampur, August 2012





アフガニスタン  
ハツダ出土



仏教が広まった理由

# 仏教の展開

仏教は

- インドのガンジス川流域に生まれる(前5世紀頃)
- インド各地に広まる(前3世紀 アショーカ王のとき)
- ガンダーラ地方で大きく飛躍し、中央アジアへ展開する(1世紀から3世紀)
- 遊牧系民族に受容され、拡大していく

# ブツダのことば

怨みに報いるに、怨みを以ってしたならば、ついに怨みのやむことはない。

怨みを捨ててこそやむ。

これは永遠の真理である。

『ダンマパダ(法句経)』第5偈

# アシヨーカ王の政治

武力による統治から  
法による統治へ

# アショーカ王柱・ルンビニー



撮影：大谷探検隊

# アショーカ王の政治

- 政治とは人民のために力を尽くすこと
- 政治とは衆生から受けている債務の返還
- 「施しの家」の設置（貧しき人々の救済）
- 人間・動物のための病院の設立
- 辺境の異民族の保護
- 仏教信者でありながら異宗教の保護

\* わが国で最初にアショーカ王の偉業に注目したのが大谷探検隊

# アショーカ王の利他的活動

一切衆生の利益・安楽のために



# 仏像の出現

仏教の歴史で画期的な出来事

1世紀にガンダーラで

ガンダーラは異民族がインドに侵入する入口

仏像＝インド、ギリシア、ローマ、イラン、中央アジアの諸文化が融合して生まれた



# シビ王本生物語



# 物語の意味するところ

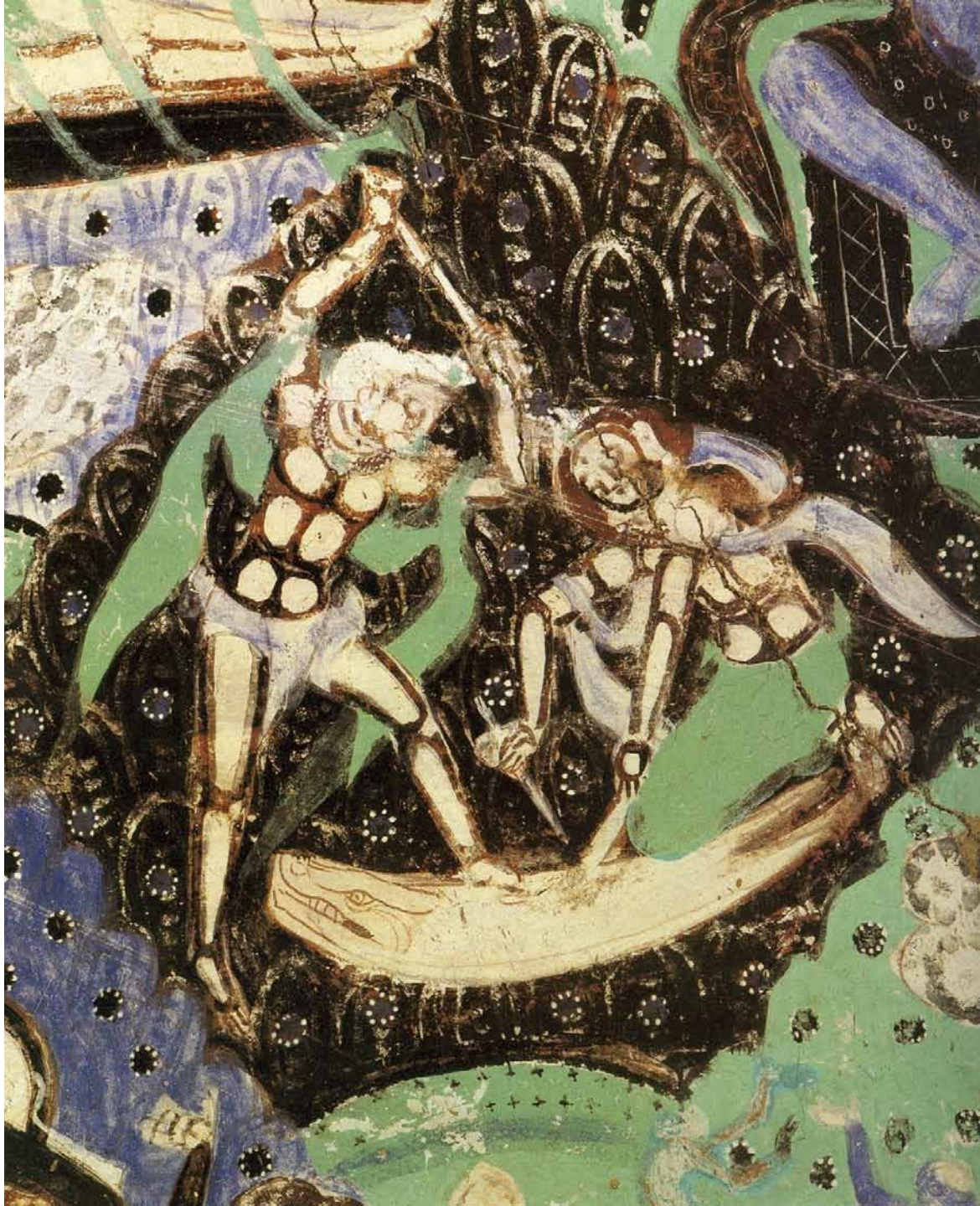
- 鳩の苦しみ・悲しみ、鷹の苦しみ・悲しみ
- シビ王のとった行動とは
- 自分の身体を切り刻んででも他者を助ける
- 私たちには真似することのできない行為
- しかし、シビ王から大切なことを学ぶことはできる。
- 「いのちあるもの」に対するまなざし
- 他者を排除しないあり方

# 菩薩という人格

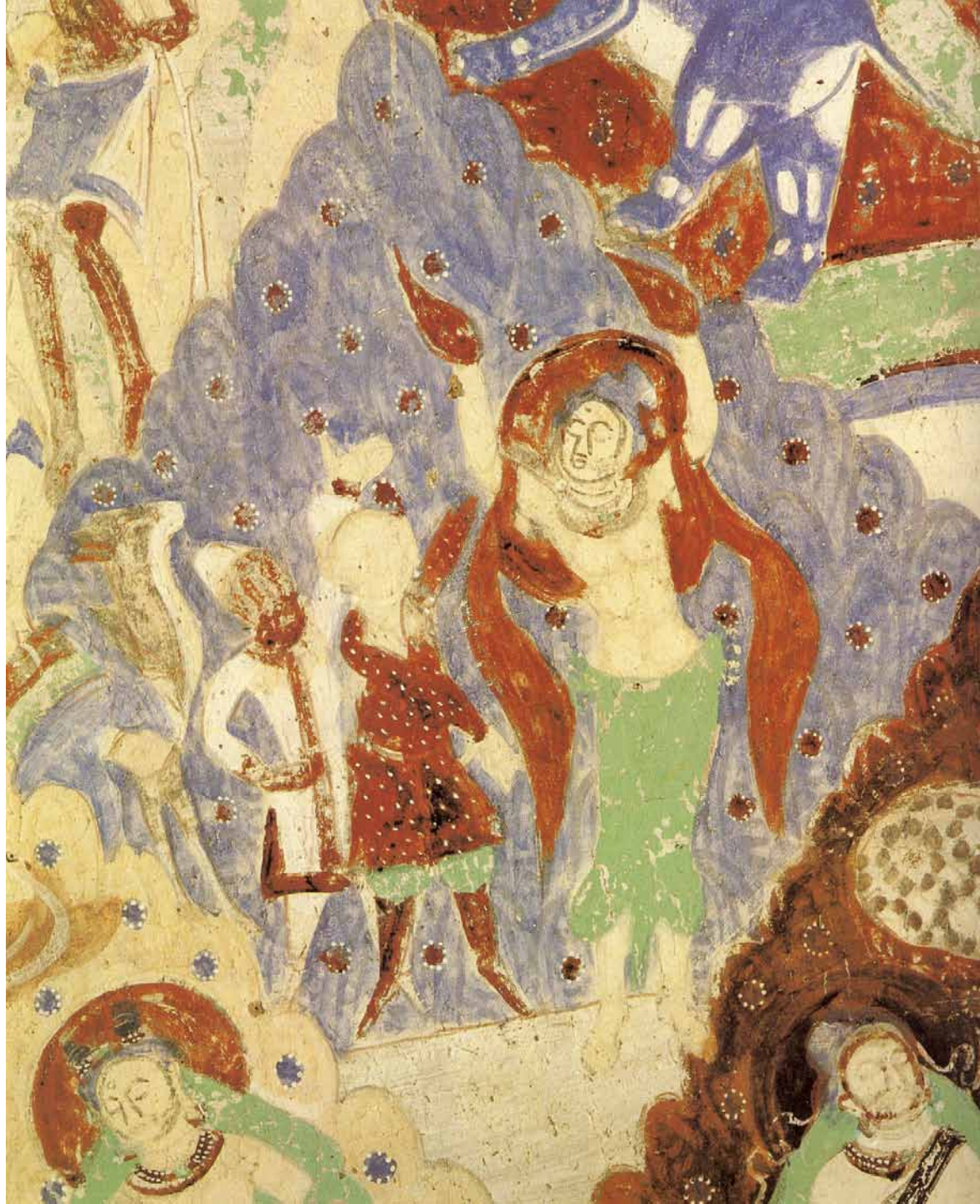
- 菩薩：もとは釈尊が悟りを開く前段階を指す言葉
- 理想的菩薩：観音菩薩、弥勒菩薩、文殊菩薩等
- 他者と共に生き、他者のために生きる
- 利他の実践：これと真逆にあるのが「排他」

# 菩薩という人格

- 他者の苦しみや悲しみに同化する
- 他者のために命を尽くす → 自他不二
- 慈悲の精神から生まれ出る「利他」



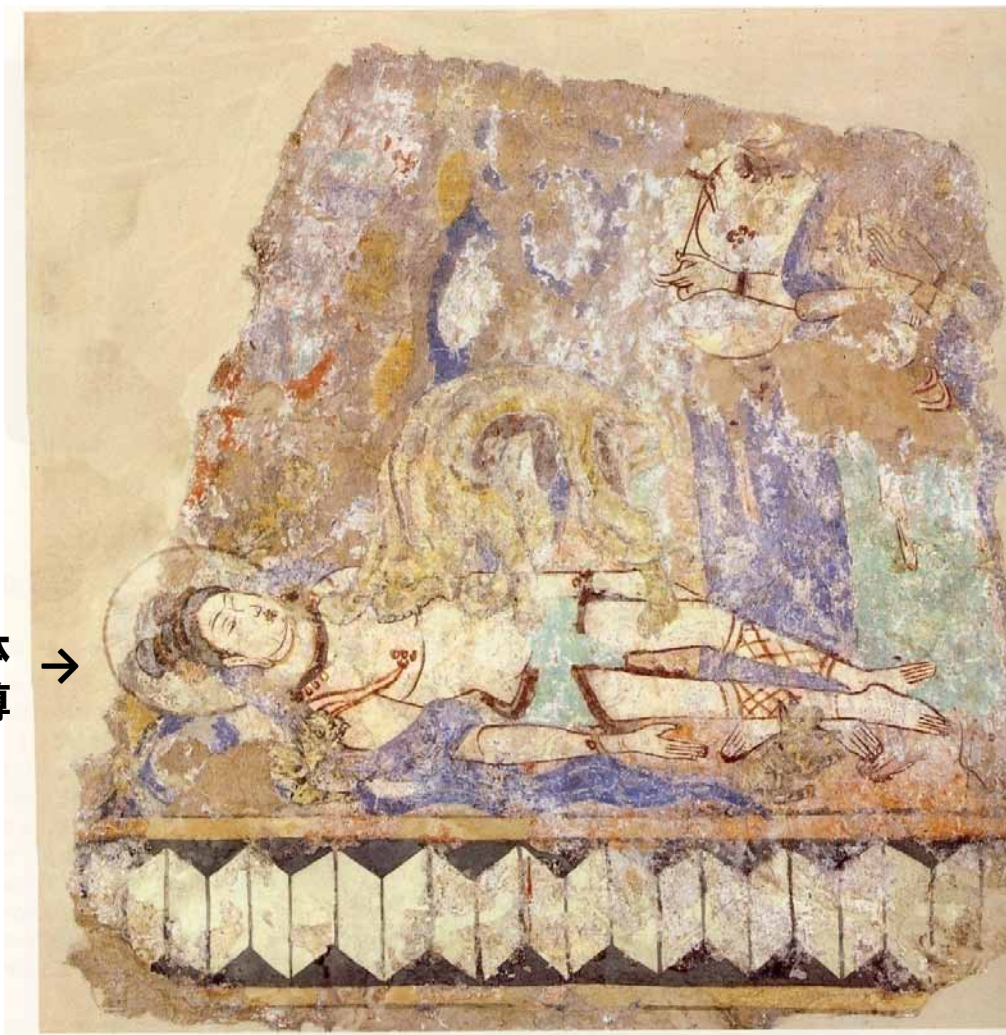
釈尊の前世  
→王そして魚



釈尊の前世  
→キャラバン隊  
の隊長

# 摩訶薩埵太子本生 (マハーサットヴァ本生図)

飢えた虎に自らの肉体  
を与える, 前世の釈尊



シクシン石窟出土, エルミタージュ美術館所蔵



# 摩訶薩埵太子本生(捨身飼虎)



キジル石窟第38窟

# 捨身飼虎(玉虫厨子)

玉虫厨子

捨身飼虎



# 聖徳太子の十七条憲法

- 第1条「和を以て貴しとなす」
- 第2条「篤く三宝を敬え」

三宝 = 仏・法・僧

他者を利する(利他)という発想

平和の構築



# 自己と他者

- 自己を犠牲にしてまでも相手を救うということは私たちにはできません。
- しかし、こうしたブッダ（釈迦）の前世の物語から、相手へのいたわり、相手へのおもいやりを学ぶことはできます。
- 「自己と他者」を「共にいのちある者」ととらえる視点がいま求められています。
- 「仏教」にふれるということは、いままで見えていなかった世界が見えてくるということです。

異民族ひしめくシルクロードでなぜ仏教が必要  
とされたのでしょうか？

一切衆生の安寧を願う菩薩のこころ



**異民族と共存する道**





究極の利他＝阿弥陀仏の誓願

# 阿弥陀仏の誓願と悪人正機

子どもはみなく仏の子>

悉皆金色の願

# 金子みすずの詩 大漁

朝焼け小焼けだ、大漁だ  
大羽鰺(おおばいわし)の大漁だ。

浜は祭りのようだけど、

海のなかでは、何万の、  
鰺(いわし)のとむらいするだろう。

仏教は＜関係性＞を重視する

# 花が咲く

- 種が〈因〉となって、花という〈果〉がもたらされる。
- では、種だけで花が咲くのでしょうか？
- 大地、水、光、養分などが必要： 縁（条件）
- 〈因〉と〈縁〉からなるこの世界→いまの子どもを考えてみましょう

子どものかいのちを育むには



# 子どもの特徴

- ひとりでは生きていけない
- 大人の真似をする

- 忘れがちなのが、子どもから学ぶという視点
- 子どもは大人の在り方を映し出す鏡

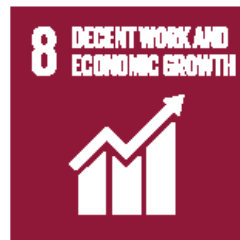
# 仏教SDGs

# SDGs

- 2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」( Sustainable Development Goals= SDGs)
- 貧困をなくそう、飢餓をゼロに すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、などSDGsは17の目標を掲げる。そして具体的な行動の目安となる169のターゲットが書き込まれている。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



# SDGs

- SDGsの掲げる「地球上の誰ひとりとして取り残さない」という誓いは仏教の慈悲の精神に通じる
- 産業界がSDGsの取り組みに舵をきるならば、世界は大きな社会変動が起きるはず

# 自省利他

- 自己満足を求めて生きるあり方をつねに省みて、社会の幸せ、他者の幸せを願っての行動を心がける
- 強靱な知性と思いやりのこころを具えた人間
- つねにわが身を省みて、社会のために尽くす

# 利他的人間

私たちは地球意識(=多様性への意識)をもつた利他的人間へと変貌すべき

未来社会を創り出すのはいまの子どもたち



# 気づきと目覚め

- 多くの恩恵を被っている自分  
家族の支え、知人の支え、友人の支え、等々
- 教えに照らされて見えてくる世界  
いままで気づかなかったことが学べる幸せ
- 宗教的情操を培うことの重要性  
人間の愚かさ気づく  
人間の素晴らしさに目覚める



バルフ近郊の養護施設

幼児教育は〈未来〉を創る  
崇高な仕事

ご清聴ありがとうございました